

第619回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2020年1月度 ——

- ◇ 開催日
2020年1月20日(月)
- ◇ 議題
＜テレビ番組＞
「アサデス。KBC」放送日：11月1日(金)
- ◇ その他

九州朝日放送株式会社

第619回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2020年1月20日(月)午後4時00分～5時30分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

副委員長	戸田 康一郎
委員	中山 裕二
委員	石井 靖子
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美
委員	山崎 靖

欠席委員数 2名 (レポート代読)

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
常務取締役	笹 栗 哲 朗
取締役 総合編成局長	森 君 夫
取締役 報道情報局長	佐 伯 拓 史
報道情報局 報道情報センター (番組チーフプロデューサー)	野 村 友 弘
報道情報局 報道情報センター (番組プロデューサー)	千 葉 亮 太 郎
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	井 上 千 秋
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

4. 議 題

- (1) テレビ番組「アサデス。KBC」＜放送日＞11月1日（金）
- (2) 2020年1月・2月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2019年11月・12月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 全国や地域のニュース、スポーツ、芸能などの話題がそれぞれコンパクトにまとめられ、見ていて飽きない構成になっていた。コーナーごとにタイトルを変え、深掘りを加えるなど、途中から番組を見ても受け止めやすい構成になるよう工夫されていた。
- キー局では伝えることができない福岡の豊富な情報を十分に伝えていた。気になる情報を手取り早く仕入れることができ、その日の出来事を大まかに理解できる構成になっていると思う。全国の話題にも地域の話にも目を向けて情報提供をしていこうというKBCの姿勢が番組から受けて取れた。
- 宮本啓丞アナウンサーの安定感と安心感は抜群に素晴らしい。映像で伝えきれない部分は言葉で丁寧に説明し、おもしろいことを話してもふざけた感じにはならない。内容により声のトーンや表情を変え、自然と宮本アナウンサーの誠実さが感じられた。
- 佐藤栄作さんの天気予報は明快で分かりやすい。福岡のPM2.5や黄砂の情報まで伝えてくれる貴重な番組だと思う。また、天気が良いので洗濯物は外に干せるが、黄砂が多く「大切なものは部屋干しにした方がよい」との情報はありがたいと思った。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- ハロウィーンについて、東京での騒動は知っていたが、天神でも同様の騒ぎになっているとは知らなかった。マスコミには伝えることで「人に迷惑をかける行動は恥ずかしい」と誘導する役割もあると思う。今後の取材で「福岡のハロウィーンは行儀よい」となるようにリードしてほしい。
- お天気のコーナーでアシスタントの女性その日の天候にあった服装をアドバイスする場面があるが、淡々とポイントを伝えている印象を抱いた。もう少し佐藤栄作さんとのからみがあってもいいかと思った。
- 「する」「させる」「れる」「られる」などの言葉遣いが気になった。テレビという公共性の高いツールでニュースを伝える場合、きちんとした日本語を使うことが大事なのではないか。
- テロップとリポートの内容が一致していない場面が気になった。例えば「首里城火災」のニュースでテロップは「出火の原因」となっていたのに、リポートで出火原因の話はなかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- より地域に根差したニュースを伝える目的で、昨秋10月にニュースの細かな構成変更を行った。会社や学校で話題になるかどうか、話題にしてほしい項目をニュースとして選んでいる。
- 他系列ではキー局の番組が放送される朝の時間帯にKBCがローカルで生番組を放送するからには、防災関連のニュースでは他局に負けてはならないとの意気込みで、圧倒的な情報をお伝えすべく日々の放送に取り組んでいる。
- 「朝イチスクープ」で取り上げたハロウィーンの話は、全国ネットであれば東京の様子しか紹介されない。福岡でもこんなことが起きているということを伝えたかった。また、ごみの散乱はハロウィーンというイベント自体が悪いわけではなかったの、ごみ拾いをする若者たちにも焦点を当て、やり方の問題を伝えたかった。
- 「言葉遣いが気になった」「テロップとリポートの内容が一致していない場面が気になった」とのご指摘は全くその通りだ。ただ、早朝から現場の記者とリポートする内容を調整する中で、打ち合わせに十分な時間がなくアンマッチが生じた。間違った表現や言葉遣いについては現場に指導し再発防止に努めたい。

などの説明をしました。